

世界金融危機が朝鮮の対外経済関係に及ぼす影響

朝鮮社会科学院経済研究所室長 李順哲

2008年に米国で発生した金融危機は、こんにち銀行、保険、証券など金融部門の範囲を出て、生産部門に急速に波及し、世界的な不景気を招いている。世界経済は、60年来の最悪の危機に陥り、国際間の貿易取引の規模は、かなり縮小している。先進資本主義国はもちろん発展途上国も世界的な不景気の影響で深刻な経済の沈滞に直面している。特に、経済の対外依存度が高い諸国が世界金融危機の影響をより大きく受けている。

しかし、朝鮮はますます深刻化している世界金融危機に微動だにしないで金日成主席の誕生100周年になる2012年までに社会主義の強盛大国の扉を開くための高い目標を提示して、経済建設を力強く推進している。もちろん世界的な金融危機が朝鮮の経済にまったく影響を及ぼしていないということではない。朝鮮も世界の中にあつて、経済分野でも世界に向かっていくことを指向しているため、自然と外国と対外経済関係を結ぶことになり、その過程において対外経済関係を經由して一定の影響を受けることになる。

朝鮮は、民族経済を建設する全過程において対外経済関係を重視してきたし、世界のさまざまな国々と経済技術的連係を拡大発展させてきた。こんにち、朝鮮は中国とロシアをはじめとする周辺諸国とはもちろん東南アジア、欧州連合（EU）諸国とも貿易、投資などのさまざまな方面において対外経済関係を発展させていっている。外国との経済的連係が拡大発展することによって、世界経済の変化と波動は朝鮮の対外経済関係に一定の影響を及ぼしている。

世界金融危機が朝鮮の対外経済関係に及ぼす影響は、外国のように深刻ではない。それは朝鮮の対外経済関係が国内経済の自立性に基づいて成り立っており、それをより一層強化することに尽くしていることと関連する。対外経済関係は、国内経済を前提としており、国内経済を離れて対外経済関係は成り立ちえない。国内経済と関連のない純粋な対外経済関係はありえない。このように見れば、当該国の経済構造が対外経済関係を規定し、対外経済関係に及ぼす影響も国内経済が反映されることになる。

当該国の経済構造が自立的な経済構造であるか、対外依存的な経済構造であるかによって、対外経済関係が世界経済の変化と波動によって受ける影響は異なって現れる。対外依存度が大きな国であるほど対外経済関係において世界経済危機の影響をより多く受ける。反対に経済的自立性が高い国であるほどその影響は小さいといえることができる。

朝鮮の経済は、自体の資源と生産的土台に基づいて自分に必要なものを自体で生産し、保障することを基本としている自立的な経済であり、対外経済関係はこのような自立性を強化することに徹底的に服従している。朝鮮が対外経済関係を発展させるのは、自国になかったり、不足したりしている原料、資材を調達し、人民経済の技術改善と現代化の促進に必要な設備と最先端科学技術を受け入れることによって、経済の自立性を絶えず強化しようとすることに根本的な目的がある。自国になかったり、不足したりするものであっても、自体で十分に解決することができるものは、積極的に努力して自体で生産し、保障することが、朝鮮が経済建設において堅持している一貫した立場である。したがって朝鮮において、経済の発展により経済規模が増えて対外経済関係が拡大してきたが、経済の自立性は絶えず強化されてきたし、対外依存度は高くない。経済的自立性が強く、対外依存度が低い経済であるほど、世界経済の変化と波動が対外経済関係に及ぼす範囲が制限され、その影響も大きくない。

こんにち、朝鮮において世界金融危機の直接的な影響を受けている部門は、国際市場を対象にしている輸出入貿易部門である。2008年に、金融危機が引き起こされ、世界的な範囲において商品に対する需要が減り、全般的な商品価格が暴落した。これによって国際貿易は急速に縮小した。これは朝鮮の対外輸出の拡大にも一定の支障を与えている。

朝鮮は鋼板、セメント、工作機械、鉛、亜鉛、マグネシアクリンカなどの工業製品と加工製品を中心として世界の色々な諸国に少なからず輸出してきた。朝鮮では、対外的需要が高く、世界市場にはなかつたり不足したりするが、国内には豊富であり大量に輸出することができる資源を積極的に開発することに力を入れている。このような品目として、マグネシアクリンカと黒鉛製品を挙げることができる。朝鮮におけるマグネシアクリンカの生産原料であるマグネサイト鉱石の埋蔵量は世界マグネサイト鉱石の総埋蔵量の56%に達しており、その生産の土台もそろっている。朝鮮では、すでに自体の資源と技術に基づいた生産体系を確立し、マグネシアクリンカ生産の主体化を立派に実現したし、鉱物生産とマグネサイト加工において飛躍的な発展を成し遂げた。この他にも自立的民族経済の強力な土台に基づいて、重工業と軽工業、農業のさまざまな生産物を輸出することができる基地を力強く作り上げ、輸出品生産に

力を入れており、電力や原料があまりかからず、国内の原料で生産することができる草物製品や工芸用品、手芸用品などを多く作って輸出してきた。

しかし世界経済危機によって、主な輸入国の国内需要が萎縮し、輸入を制限する傾向が強くなるなか、朝鮮の輸出品の販売市場は一定の縮小を見た。さらに朝鮮が輸出している多くの製品の国際市場の価格が暴落したことにより、輸出の拡大に支障が出てくる。

鉛と亜鉛の価格だけ見ても2008年の上半期に国際市場において、1トン当たりそれぞれ3,008米ドル、2,511米ドルでして取り引きされていたものが、1年後の2009年3月にはそれぞれ1,223米ドル、1,192米ドルと半分以上暴落した。銅や鋼鉄の価格も同期間にそれぞれ1トン当たり8,520米ドルと1,160米ドルから3,692米ドルと550米ドルにそれぞれ下落した。国際市場において、全般的な商品の価格低下は朝鮮の輸出拡大に難関を作っており、それによって外貨収入にも一定の影響が出ている。

しかし朝鮮における輸出不振は、外国のように経済全般に影響を及ぼしてはいない。それは経済の対外輸出の依存度が低いこともあるが、重要なのは経済活動全般に対する国家の計画的管理が徹底的に実現されていることと関連する。経済の対外依存度が高く、すべての対外経済関係が国際市場の景気により自然発生的に成り立つ資本主義経済では、輸出入貿易をはじめとする対外経済関係が沈滞と混乱に陥れば、その影響が国内経済全般に直接的に波及し、企業破産と失業の増大など経済危機が招来されることになる。しかし、対外経済関係をはじめとするすべての経済生活が国家の統一的な計画と指導下に進行される朝鮮では、国家の経済組織的機能によって、対外市場の変動と混乱による影響を効果的に抑制している。朝鮮では、輸出部門の生産能力と国内需要規模、国際市場における商品の需給実態と主な対象国における景気状態などに対する細かい調査と打算に基づいて、対外経済活動が計画的に進行され、国家によって目的意識的に管理されている。

世界経済危機によって、対外経済部門において輸出不振が起きる場合にも、それを国家計画によって、国内的範囲で合理的に調整していくことによって輸出部門の正常な運営を保障し、経済全般の安定的かつバランスの取れた発展を保障している。世界金融危機によって、外国が経済的混乱と沈滞に陥って入っている中でも、朝鮮で逆に経済がますます活性化している現実、社会主義の計画経済の優越性を実証する端的な実例とすることができる。

世界金融危機は、朝鮮の輸出拡大に一定の難関を作っているが、原油やゴム、コークスなど主要原料、燃料を下がっ

た値段で買うことができる条件を作っている。原油、ゴム、コークスは現代工業発展になくてはならない重要な戦略資源になっており、世界的に一部の国と地域に偏在している。したがって朝鮮ではこのような物資を輸入してきたし、これらに対して少くない外貨を支払わなければならなかった。しかし、世界経済危機によってこれらの物資の市場価格は、これまでになかったほど急速に低下してきている。2000年以来、不断に上昇してきた原料、燃料の価格は2008年の米国発の金融危機を契機に低下し始めており、世界的な経済危機が深刻化されることによって、より一層急速に下落している。2008年上半期までは1バレル当たり104米ドルに達した原油価格は2009年3月に45米ドルになったし、ガソリンやディーゼル油、航空燃料などの価格も同期間にそれぞれ半分以上に落ちた。燃料価格だけではなくゴムとコークス炭などの価格も大幅に低下している。タイ産の生ゴムの価格は、2008年上半期の1トン当たり2,900米ドルから2009年3月には1,475米ドルになり、中国産コークス炭の価格は同期間に1トン当たり334米ドルから130米ドルへと大幅に下がった。世界的な経済沈滞により、資本主義世界の全般的な経済部門において企業が経営難から抜け出すための在庫縮小、過剰生産物の処理に必死になっている。これによって商品価格はより一層急速に低下している。

こんにち、金融危機は、国際投資関係での混乱と沈滞を通じて世界各国の経済に深刻な影響を及ぼしている。今回の金融危機は、外国投資家が金融危機の深刻化による投資収入の不安定化に危機を感じ、投資財産を回収して、国外に大々的に撤収させたことによって、より深刻化して拡大されたといえる。しかし朝鮮では、外国のように資本逃避による経済的混乱が起きていない。それは単純に朝鮮で短期証券投資のような投機的な資本投資を受け入れていないことだけに原因があることではない。

一般的にある国において、経済危機が発生すれば投機的な短期証券投資が先に撤収し、後に海外直接投資のような実物資本投資も収益率が落ちて回収されることが普遍的である。実際に金融危機が深刻化している中で、世界の少くない国々では資本逃避現状が証券投資だけではなく、直接投資でも少なからず現れて経済的破局をより先鋭化させている。

朝鮮においては、世界金融危機が深刻化している中でも他の国々とは異なり投資分野で資本撤収のような危機が発生していないことは投資環境が安定していることと主に関連している。こんにち、朝鮮の国家社会制度は政治、経済、文化の全分野において非常に強固である。首領、党、大衆

の一心団結が実現され、人民大衆が国家と社会の主人になっている朝鮮では国家社会の経済制度の安全性が最も高い水準で保障されており、どんな政治的波動や混乱も起きていない。特に先軍政治によって用意された強力な政治軍事的な力に基づいて、朝鮮半島の平和と安全を担保し、北東アジア地域の政治軍事的な不安定性を解消することによって、諸国間の経済関係を拡大発展させることに有利な政治的環境を用意している。

朝鮮における道路、鉄道、通信網そして動力、工業用水の保障施設をはじめとする経済インフラを不断に整備・改善しており、さらに全般的な経済が絶えず活性化されることによって、外国投資家に有利な経営活動が保障されている。朝鮮は、自立的民族経済の土台を絶えず強化して国内経済の安定的な発展を保障しているだけでなく外国投資家に有利な投資誘致の環境を用意している。

朝鮮では、1984年に合弁法が出て以来1990年代を経て今日に至るまで数多くの外国投資関係法を制定し、それを修

正補充してきた。このようにして合作法、外国人投資法、対外経済仲裁法、土地賃貸法、外国投資企業および外国人税金法などをはじめとする、数多くの対外経済関連法と関連規定、施行細則が採択され、その内容が具体化された。

このほかにも朝鮮は外国との投資奨励および保護に関する二国間協定も締結して、外国投資家の投資財産を保護するための措置を積極的に取った。すでに朝鮮と投資奨励および保護に関する協定を締結した諸国は10カ国あたりに達している。

このようにこんにちの朝鮮では、政治的および経済的環境と法律的环境において、外国投資家に有利な投資条件を保障しており、金融危機が深刻化している中でも資本逃避現状が起きるのではなく、逆に世界の色々な諸国から投資提案が増えている。

[朝鮮語原稿をERINAにて翻訳]

(原稿受付2009年9月)